



じとぜんひろば

No.116 2024年(令和6年)12月1日

地御前地区自治会

地御前地区自治会公式LINEはこちらから↓



地御前地区運動会 5年ぶり開催

11月10日(日)コロナ禍前に比べると参加人数は少なかったが、天候に恵まれて、各種目とも盛り上がった。

保健体育事業部による開催に向けての準備では、5年のブランクは大きかった。コロナ禍の間に町内会毎にある子ども会がいくつも無くなり、中止が何年も続いたために町内会の体育担当者の引き継ぎも無くなっていて、参加人数の把握や種目毎のとりまとめ、地区対抗だったスタイルをどうするかなど、ほぼ初めて開催するのと同じ試行錯誤が続いた。そんな中、各町



松本市長、新田議長、北野議員、吉本会長でパチリ

令和6年11月10日。コロナ禍やインフルエンザ流行などで開催できなかった地御前地区運動会が5年ぶりに開催された。とても清々しい秋晴れの天候に恵まれ、全世代が集う楽しいイベントになった。

開会式には松本市長、新田市長が甘日市市・ハワイ郡姉妹都市提携に関連し、ハワイ移民で歴史的な繋がりのある地御前で、郷土文化保存会、地御前地区自治会、市民センター活動委員、正行寺、西向寺、地御前小学校の協力でメッセージ動画を作成し、ハワイで披露できたことへのお礼を述べられた。更に、スポーツをまちづくりの真ん中に据えていることに言及し、



スタッフに紅白代表を紹介する田村保健体育事業部長

内会の体育委員、ハッピーオレンジの子どもたち他、いろんな方々の協力があり、壁を乗り越えての開催となった。

一周200mは未就学児には長すぎると思いきや、しつかり一人で走りきる姿には思わず応援の歓声があがった。

60分間の激走の結果は101周(一周200m×101周=202km)で野坂中陸上部が新記録を叩き出して優勝した。

ハッピーオレンジが66周、TeamTenが68周、楽走会が80周という結果は、ただ参加しただけではない「全力」の証だった。選手も応援者も、みんなで参加する行事ならではの一体感を感じた。



バトンパスもだんだん上手に



強引に自ら参加する未就学児

トピックス

地御前の秋祭り

令和6年10月13日(日)、秋祭りが行われました。

各々の場所でも顔ぶれも規模も違いながら、それぞれに応じて続けられていることが「すごい」と感じました。

朝8時から子ども神輿(俵もみ)、午後1時から大歳神社祭事と神輿、午後5時から今市稲荷神社祭事、午後6時から八つ面神社祭事が行われました。どの神社の祭事でも、地域の人たちに変わらぬ自然の恵みをもたらされるようにという祝詞が奏上されました。地域を護る鎮守の杜ですが、



俵もみは大歳神社をスタートし、地元の港町町内会エリアを回った

それをまた守っている人たちがいて、護り護られて普通の暮らしが続けられているのだなあとつくづく思いました。

港町町内会、港町子ども会が子ども神輿(俵もみ)をしました。地御前の暮らしの中から唄い継がれてきた民謡に、子どもたちも合の手を入れながら町内を廻りました。唄出しできる人は少なくなっていて、地御前郷土文化保存会の方々が助けてくださいました。昔は濱と町が競って俵もみを行っていましたが、現在では2年に1回、1体だけで行うのみになっています。昔はワルが受け持っていた怖い「ハナ」も今はとても行儀正しく祭の盛り上げ役を果たしています。



今市稲荷神社での祭礼の様子

午後1時からは大歳神社の祭事が始まりました。飯田宮司さんによる祝詞の後、ご神体を神輿におさめて大歳神社を出発しました。御旅所先の今市稲荷神社の下で再度祝詞を奏上した後、大歳神社へ戻りました。今は先頭の軽トラックから雅楽を流していますが、昔は当然生演奏の雅楽が一緒に歩いていました。自治会の吉本会長は神輿の行列で笙(しょう)を吹いておられたそうです。

午後5時から今市稲荷神社での祭事が執り行われました。参加者ひとりひとりが玉串(たまぐし)を奉奠(ほうてん)しました。玉はもととも魂(たましい)を意味し、申はつながりを表していること。私たちの祈念が魂によつて神さまとつながること象徴しています。(飯田宮司さんより) この日の最後は八つ面神社での祭礼。今もごく少人数の方々によつて守られています。お世話を下さる方やご家族をはじめ、こうして集う方々、他の皆さんの安寧を願う気持ち自然と湧いてきます。

編集後記

★昔からあるお祭りや神事に参加しながら何故続けられているのだろうと思った。生物学者・福岡伸一氏の生物を定義する「動的平衡」を思い出す。「絶え間ない流れの中で一種のバランスが取れた状態のこと。崩壊してゆく生命の構成成分を先回りして分解し、乱雑さによつて崩壊して行く速度よりも早く再構成され続けることでバランスが保たれる。」こと。人が暮らす地御前も実は生き物と同じ。J・K 是非ご寄稿を RXE15645@nifty.ne.jp

「発行」 地御前市民センター内 地御前地区自治会 広報事業部



八つ面神社での祭礼の様子 この頃にはすっかり辺りは暗くなっていた

人も、心が前向きになる魅力があり、スポーツをまわづくりに活かすこのような活動があることに賛辞が述べられた。



遊びたい!でもちょっと怖い。。

運動会と言えばやはり家族での参加が大多数だ。トラックを囲んでいろんな会話が聞こえて来た。



ラッキーカラー&パン食い競争

「お父さんが次、走るんだよ」。「お、やったじゃん」。「ほらあ、赤の恐竜が速い」。「赤が速かったねえ」。歓声や拍手が競技を盛り上げた。



カゴを背負う鬼を追う「鬼ごっこ玉入れ」

急な参加希望者にも出来るだけ対応をし、その場での人数調整も行われた。中には参加できなかった人もいて、低学年の女の子が残念そうにお母さんと元に戻って行く光景があった。スタッフの高齢男性がすぐ駆け寄って女の子に声をかけ、その子が勝つまでジャンケンをし、参加者に渡すお菓子を渡していた。そんな臨機応変な心ある対応にも拍手を送りたい。郷土文化保存会による地御前盆踊りでも、呼びかけに応じて踊りの輪ができた。

「習ったでしよ。出ておいでえ」と向さんが子どもたちに言うと、ハーメルンの笛吹きの話のように子どもたちが輪になった。実際には踊ったことのない未就学児もいたが、連れ立って出てきてくれたことが何より嬉しい。



唄・笛・太鼓・三味線の演奏で地御前盆踊りを踊った

翌日、月曜日の朝。昨日の運動会は楽しかったと活き活きと話しながら登校している児童が何人もいたと、登下校の見守り隊から自治会役員に伝えられた。そんなエピソードが伝えられる度に、久々の地区運動会開催に関わった方々は報われた気持ちを感じた。



【おたまじゃくし 飼育奮闘記】

我が家の菜園（借地）に散水用の水溜容器が3つある。昨年の7月のこと、3つの容器の中でおたまじゃくしが気持ちよさそうに泳いでいるのを見つけた。

その日を境に野菜づくりに励む私の心を和ませてくれた。しかし、8月になると灼熱で日増しに容器の水温が（41度/夕方）に上がり、手足が生え成長したかに思えたカエルが、暑さに耐えきれず死んだ。可哀そうで涙が出た!!

「なぜか、釜茹での刑になった石川五右衛門のことを思い出す・・・むごい」そんな過酷な条件下、果たして今年も卵を産み付け孵化するだろうか? 半信半疑で観察を続けた。すると



7月上旬のある日のこと、おたまじゃくしが3つの容器の中で所せましと泳いでいるではないか!? やったー!! と声を上げた。しかし、今年の暑さは昨年以上に尋常ではない。このままでは昨年との二の舞になる。

そこから私のおたまじゃくし【飼育奮闘記】が始まった。我が家の愛猫「ミミ」の餌を拝借し、3日に一度与える。容器が熱くならないようにふたをし、その上に青々とした蔓の葉や笹を置き日陰をつくる。朝夕は水温管理をし、（朝28度前後）（夕36度前後）になるように水の入れ替え

（80リ/毎日）をする。夕方とは言い猛暑の中80リの水運びはつらい。一途におたまじゃくしが生育し、カエルに成長することを楽しみに高齢にむち打ち頑張った。8月12日（月）夕方、な

んと1センチ程度に成長した2匹の小さなアマガエル（写真）が、容器の縁で私の方を見ていた（？）ではないか!? 感動した!!

感動したのには訳がある。我が家の先祖の墓参りに行くとき必ずと言っていいほど墓石に成体したアマガエルがいる。先祖の生まれ変わりかと思うことがある。

今年3月、母が百四歳で亡くなった。もしかしたらこのアマガエルは、母の生まれ変わりかとも知れない。その思いを抱きつつ初盆の墓参りに行くと、そこに小さなアマガエルがいた。

肝心の野菜は散水がおろそかになり、殆どの野菜は枯れてしまったが、私の心は充実感でいっぱい!!

令和6年8月16日
田屋在住・崎村 六士



野坂中陸上部女子も母校グラウンドを疾走した



綱引きの力いっぱい顔って、自然に応援したくなる



未就学児のかけっこ 大きなグラウンドでも平気



グラウンドゴルフフリー 結構な距離がありました



野坂中男子陸上部は10/5大竹・廿日市中学駅伝大会で32年ぶりに優勝した

第50回 リレーマラソン

2024年10月14日（月・スポーツの日）保健体育事業部主催、恒例のリレーマラソンが三共ディスプレイグリーンフィールドで開催された。例年であれば3月20日（春分の日）のまだ肌寒い時期に行われるが、来年の同時期は人工芝の張り替え工事を使えないため、この日の開催となった。



参加者それぞれが力を合わせて全チームが60分を走破した

天候に恵まれ、強い日差しと秋らしい空気の中で競

技が開催された。オープニングにはハッピーオレンジの子どもたちがダンスを披露した。音楽に合わせて後ろの方で5体の着ぐるみ恐竜たちのひょうきんな動きも場を楽しく盛り上げた。Team Ten（3家族・外国人混合10人のチーム）、楽走会2024（マラソンや水泳などを趣味でやっている老若男女混合チーム）、ハッピーオレンジ（未就学児から低学年児童、その保護者）、野坂中陸上部男女混合チームの計約40名が参加した。大会新記録を狙うガチ勢もいれば、家族の良い思い出作り、地域の絆作りでの参加もあり、いろんな楽しみ方をスタツフも応援者もみんなでする素敵な催しとなった。